主題：神のエコノミーと分与

メッセージ　6

キリスト・イエスの心の深みの中で生きることによって神聖な分与を経験し、召会生活の中で神の同情と慈愛を表現する

聖書：詩 16:7．雅 5:14 後半．ピリピ 1:8．ピレモン 7, 20 節．コロサイ 3:12．テトス 3:4

Ⅰ．人として、キリストは人の内なる各部分（心の深み）とそのさまざまな機能を持ち、内なる各部分におけるキリストの経験は、彼の愛、願い、感覚、思想、決定、動機、意図を含めた彼の思い、感情、意志、魂、心、霊における経験でした――ルカ 2:49．ヨハネ 2:17．マタイ 26:39．イザヤ 53:11-12．42:4．マルコ 2:8：

Ａ．平安のささげ物の内なる各部分は、キリストが神の満足のために神に対して彼の内なる存在において何であるかの優しさ、小ささ、尊さを表徴します――レビ 3:3。

Ｂ．キリストの内なる各部分は夜に彼を教えました――詩 16:7 後半．イザヤ 50:4：

１．神が人としてのキリストと相談したとき、キリストの内なる各部分は神との接触を通して彼を教えました――詩 16:7。

２．キリストの内なる各部分は神と一でした。これは神・人の正常な経験です――ピリピ 1:8。

Ｃ．「その腹は、サファイアで覆った象牙の細工」（雅 5:14 後半）。キリストの内なる各部分（腹）は、明確な、天のビジョン（サファイア、参照、出 24:10）の下で、彼の苦難（象牙の細工）を通して造り込まれた深い、優しい感覚に満ちています。

Ｄ．過越の小羊とその内臓（内なる各部分）を食べることは、キリストの心の深み（内なる各部分）を取ることを表徴します―― 12:9．ピリピ 1:8。

Ⅱ．パウロはキリストの心の深みを絶えず経験した人でした―― 8 節．2:5．Ⅰコリント 2:16 後半．ローマ 8:6：

Ａ．パウロはキリストの心の深み（彼の愛情、優しいあわれみ、深い同情）においてさえ、キリストと一でした――ピリピ 1:8。

Ｂ．パウロは自分自身の心の深みを保ったのではなく、キリストの心の深みを彼のものとしました――エペソ 3:17：

１．パウロはキリストの思いだけでなく、彼の内なる全存在を取りました。

２．パウロの内なる存在は変えられ、再構成され、改造されました。

３．パウロの内なる存在は、キリストの心の深みをもって再構成されました――コロサイ 3:12。

Ｃ．真実として（正直、忠信、信頼として）キリストの中にあったものは、パウロの中にもありました――Ⅱコリント 11:10。

Ｄ．聖徒たちに対するパウロの愛は、彼の愛ではなくキリストにある愛、すなわちキリストの愛でした。ですから、パウロが聖徒たちを愛したのは、彼の天然の愛によってではなく、キリストの愛によってでした――Ⅰコリント 16:24。

Ⅲ．キリストを愛することは、わたしたちがキリスト・イエスの心の深みの中にとどまる

ことを必要とします——ピリピ 1:21 前半, 8：

A．パウロはキリストの心の深みを経験しました。パウロは聖徒たちを恋い慕うことで、キリストの心の深みと一でした—— 8 節。

B．パウロは彼の天然の内なる存在にある命を生きたのではありません。彼はキリストの心の深みにある命を生きました。

C．わたしたちはキリストにある者になろうとするなら、彼の心の深みの中にあり、彼の優しく繊細な感覚の中になければなりません——ヨハネ 15:4 前半。

D．キリストを生きるとは、彼の心の深みの中に住み、そこで恵みとしての彼を享受することです——ピリピ 1:7．4:23。

Ⅳ．ピレモンへの手紙には、キリスト・イエスの心の深みの中に生きた召会生活の絵があります—— 7, 12, 20 節．参照、啓 2:23：

A．心の深みは、内なる愛情、情け深さ、同情を表徴します——ピリピ 1:8．2:1．コロサイ 3:12。

B．パウロの内なる愛情と同情は、オネシモと共にピレモンに行きました——ピレモン 12 節。

Ⅴ．パウロは召会を顧みることで、キリスト・イエスの心の深みを彼自身の心の心の深みとしました——ピリピ 1:8：

A．パウロはキリストの感覚を自分自身の感覚とすることによって、キリストのからだを顧みました。

B．からだに対するキリストの感覚は、からだに対するパウロの感覚となりました。

C．パウロのように、わたしたちはかしらの感覚をわたしたち自身の感覚とすべきです。これは、わたしたちがからだの生活を生きるために最も必要なことです—— 8 節。

Ⅵ．召会生活、からだの生活、新しい人の生活のために、わたしたちは思いやりの心、慈愛を着る必要があります——コロサイ 3:10-12：

A．思いやりとは他の人の苦難に深く気づき、それを受け入れるという願いを持つことです——ルカ 6:36：

1．思いやりはあわれみより深く、細やかで、豊かです—— 10:33-34。

2．「思いやり」という言葉は最も深い言葉であり、人のあわれな状態に対する神の内なる愛情を見せています——詩 103:8．ヤコブ 5:11．Ⅱコリント 1:3。

B．慈愛は親切な善であり、あわれみと愛から出て来ます。そのような慈愛の中で、神の恵みがわたしたちに与えられます——テトス 3:4．エペソ 2:7：

1．ダビデがメピボセテに神の慈しみを示したことは、神の慈しみがわたしたちを資格づけて、絶えず王の食卓で食物を食べさせることを描写しています——サムエル下 9:1-13。

2．「互いに親切で情け深くあり」（エペソ 4:32）。「愛は親切で」（Ⅰコリント 13:4）。

©2014 Living Stream Ministry